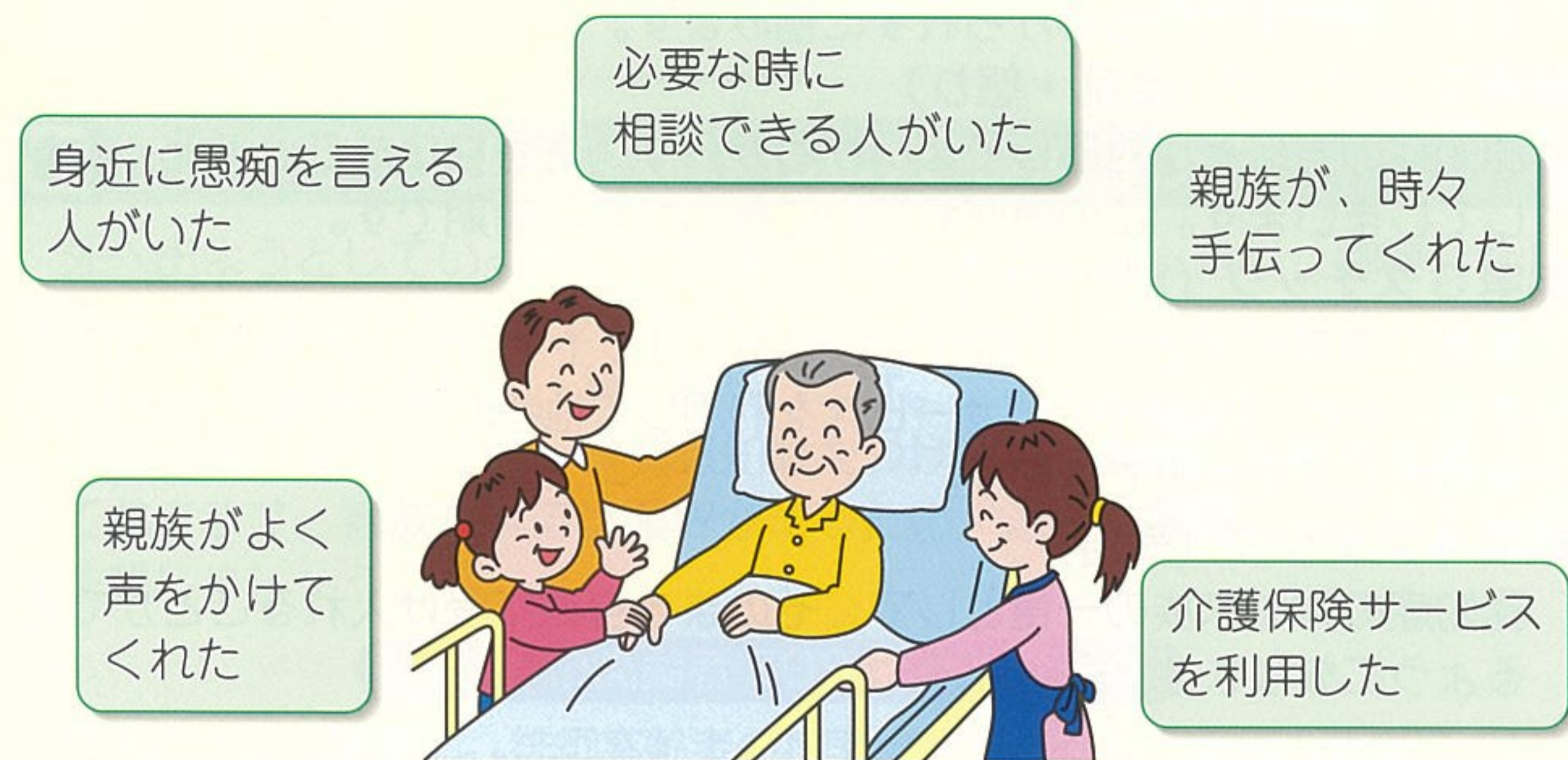


■在宅介護を続けるためには、周りの手助けが必要

認知症と診断された時、家族は、「先が見えない」と辛い気持ちになりがちです。また、「周囲に知られると本人のプライドが傷つくのでは？」と思う家族もあります。こんな時、本人の病気や介護方法を理解し、介護者に代わって支援してくれる人がいることで、「1人で抱え込まなくてもいい」と実感することができます。本人と少し離れる時間をつくることで、身体やこころの疲れを緩和することができます。

■介護を続ける支えになったこと



★「認知症サポーター養成講座」を行っています。

認知症サポーターとは…

- 認知症を正しく理解し、その内容を家族や友人に伝える。
- 認知症の方やその家族の気持ちを理解し、温かく見守る。
- 困っている高齢者に気付いたら、さりげなく声をかける。



自分のできることから始めることが、住みよいまちづくりへの第一歩となります。認知症の方やその家族を温かく見守る認知症サポーターの証として「オレンジリング」をセミナーの参加者に配っています。

介護は、家族を中心に社会全体で支えていく仕組みがますます必要となっています。